

メッセージアウトライン

ヨハネ14：12~17「もうひとりの助け主」

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです」(12) ここでは信じる者がイエスが行われた奇跡のみわざ以上のことができるということを言おうとしているのではなく、福音を宣べ伝えるということにおいて、イエスが地上におられる時になさった以上に大きなことができるということである。それはなぜか。それはイエスが行かれた父のもと、天において弟子たちの祈りに答え、福音を宣べ伝えるための力を豊かに与え、それを実現させてくださるからである。「あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです」(13)「何でも」という言葉は魅力的であるが、それは「わたし(イエス)の名によって」求めるものであり、その願いが聞かれた結果、神がほめたたえられるようになるということが大切なのである。このことをよく理解した上で、私たちは「何でも」熱心に大胆に求める者となればよい。また、祈りをかなえてくださるのは父なる神ではなく、「わたし」と言われるイエス・キリストご自身であるということも教えられる。(14) ヨハネ15:16では、「父があなたがたにお与えになる」と書かれている。それゆえ私たちクリスチャンが祈る神は父であり、子なるイエスでもあり、そして後で出てくる聖霊でもある三位一体の神であられるのだということがはっきりとわかる。

「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」(15) イエスの戒めは互いに愛し合うこと。→ヨハネ13:34~35 私たちの罪のために十字架にかけられ、身代わりとなって死んでくださった。それほど私たちを愛してくださっているこのイエスの愛、神の愛こそ私たちの模範とするべきものである。→ローマ13:8~10 このイエスの戒めを守らず、自分の願いだけを聞いてもらおうと思ってもダメ。

「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです」(16) イエスは3年間弟子たちと共におられたが、もうひとりの助け主はいつまでも弟子たち、クリスチャンとともにいて、助け主としての働きをしてくださるのである。「その方は真理の御霊です」(17)そのお方こそ三位一体の第三位格なる御霊なる神なのである。御霊は聖霊とも呼ばれる。御霊は真理であるイエスを伝え、これが真理だとの確信を与え、信じさせる働きをするお方なのである。「世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです」(17)これがこの世の現実である。「しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです」(17) 弟子たちはすでに聖霊の働きにあずかってイエスを信じることができた。すでに聖霊は彼らのうちに住んでおられるが、しかし全面的に下られて、力をもって福音伝道のわざがなされていくのはイエスが天に上られた後の使徒2章のペンテコステの日以後のことである。私たちもこの助け主なる聖霊に全面的に信頼して、素晴らしいみわざをなしていただく。